

第3回 監理団体の役割と選び方

技能実習生を受け入れるには二つの方法がある。一つは企業単独型、もう一つは私たち監理団体が間に入る団体監理型。ここでは全体の9割を占める団体監理型を説明する。

受け入れにはまず、外国人技能実習機構より許可を受けた非営利の団体(事業協同組合など)に加盟することが必要だ。この許可を受けた団体を「監理団体」と呼ぶ。監理団体は送出し国の機関との調整(面接や雇用契約締結支援など)や、在留資格取得に向けた支援(実習計画認定申請、在留資格申請など)を行う。また、入国後は月1回

の訪問指導や3カ月に1回の法定監査を実施する。この時、実習生の直接面談も行う。監理団体は実習生と受入施設双方への支援とチェックを実施することで、実習が適正に行われるよう透明性を高めているのだ。

今からでも遅くない
賢い介護技能実習生の

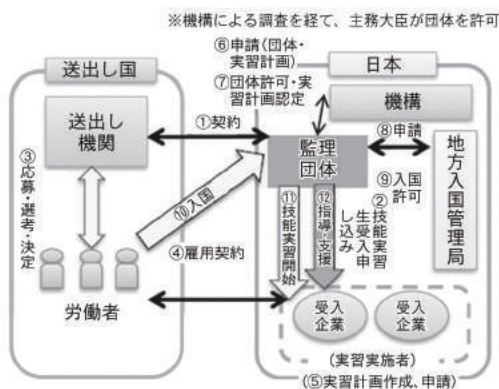
活用術

ライフケア医療介護事業協同組合
専務理事 庄司孝正



利点もリスクも示す団体を

【団体監理型】



出典:法務省入国管理局「新たな外国人技能実習制度について」

庄司孝正プロフィール

ライフケア医療介護事業協同組合 専務理事
1999年から大手企業グループで介護保険制度スタートに伴う新規事業立ち上げプロジェクトに参画。以降およそ20年にわたって介護業界に身を置き、施設運営や企業経営などに従事。2017年からライフケア医療介護事業協同組合の専務理事を務めている。現在は監理団体での外国人技能実習制度に関する業務に携わるほか、介護分野における同制度の普及・啓発に向けた活動を行う。

良い監理団体とは
では、信頼できる監理団体を見分けるポイントはどこか。第一には、前述した多岐にわたる業務を正しく運用できること。実習機構による受入施設に対する監査も実施されることになり、違反した場合の罰則も厳しく制定されているからだ。その

上で、制度の本旨を理解し、実習生を受け入れる利点だけでなく、想定されるリスクもあわせて正しく示し、導いてくれる監理団体が信頼できるといえるのではないか。また、決して費用(監理費や諸費用)の安さだけで選んではいけない。価格には理由がある。その理由を明確に回答できる。その大きな山となる現地で、次回は、加盟後の最初

なることも選ばれる理由になるだろう。多くの監理団体が介護職種を追加・更新する中で、介護職種専門の新しい監理団体も名乗りを上げてきた。数はまだ少ないが、介護の仕事は詳しく理解している。仕事を詳しく理解している。仕事を詳しく理解している。